
べるぜバブ ~もう一人の悪魔~

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

べるぜバブ ～もう一人の悪魔～

【Nコード】

N5627X

【作者名】

?紫苑?

【あらすじ】

男鹿とベル坊以外にまだいた!?

その名は飛翔 隼とクロ

オリ主とオリキャラが出てきます

プロローグ(前書き)

初めまして？
はるです

プロローグ

ある晴れの日とその男は走っていた・・・

「・・・待って!」

いや逃げていたのほうがいいかな?

「誰が待つかよ! ハア ハア」

「・・・なぜ坊ちやまの親代わりになつてくれない?」

「いや めんどくせーし お前ら人間じゃねーし」

「・・・めんどくさい!? ・・・坊ちやまの親代わりになれると
いうのに」

「いやっ!? 重要なことばしてねえ!?!」

「・・・?」

「人間じゃねーってことだよ!」

「・・・普通」

「普通じゃねーし ここ人・間・界だよ 分かる!?!」

「・・・うん」

「じゃあ 魔界に帰ったほうがいいと思う!」

「・・・だめ! ・・・大魔王様が人間界に行つて親を見つけて
育てさせるつて言ったから・・・帰つたらだめなの!」

えっ 今 この子おかしなこと言つてなかった!?!

プロローグ（後書き）

ちよっと中途半端ですけど早めに続きを書きたいと思えます
よかったら、感想を書いてください

滅ぼす！？ ？だろっ？（前書き）

^
^

滅ぼす！？ ？ だろっ？

滅ぼす！？

「いやっ滅ぼすってダメだろっ！！」

「・・・なぜ？」

正気か この子！？

「なぜって、滅ぼされたら 俺死んじやうし

みんな死んじやうからね！？」

「・・・そうですか」

分かってねえー 絶対分かってねーよこの子

「ねえ 名前は何て言うんだっけ？ その子も」

大人しいよなあ そこにいる赤ちゃん 全然しゃべらねえよ

「・・・坊ちやまのお名前は、クロウ・M・2世様です。

・・・私は、ミクル・マストと申します。」

ミクル・マストかあ なげー名前

「ミクル・マストねえー ミストでいいか？」

「・・・はい。」

クロウ！ かつこいい名前だなあー

「そいつはクロウかあ　クロでいつか」
「だあぶ！」

うおっ！　危ねえ！　いきなり抱きついて来たぜ

「・・・坊ちやまも　こんなになつておられますし
・・・親になつて？」

「・・・なあミスト　親ってどういう人がいいんだ？」
「・・・強くて、鬼畜で、極悪非道な人？」

「俺そこまで、鬼畜じゃねーし、悪いこともしてねーよ！」
「・・・それは・・・坊ちやまがなついたから・・・」
「曖昧すぎねえ！？」

そついう理由で親に選ばれたのかよ！

こんなことで人生くるわされてたまるかよ！

「・・・」
「ごまかすな！」

はあ　何かこいつと話しているとペースがくずれるなあ
何か漫才みたいになつちやってるし・・・

「はあ　まあいいや　それでお前らはどこで寝るの？」
「親の家？」

やっぱりか　けどほっとくわけにもいかねーしなあ

「・・・今日だけだぞ？」

まだ親になるのはみとめてねーからな？」

「おーじょつぎわが悪い」

「お前もな!!」

「・・・家 どころ?」

マイペースすぎんだろこの子

それとクロ会ってから一言しかしゃべってねーし

滅ぼす！？ ？だろっ？（後書き）

次回は隼の家に行きます
感想よろしくお願いします

うわっ！　ここ日本か！？（前書き）

どんな家なんでしょうね〜

何と　お気に入り登録が4件も！！

まだ、2話しかだしてなかったのに・・・

かなり、うれしいです！

お気に入り登録をしてくださった方

本当にありがとうございます！

「うわっ！　ここ日本か！？」

クロウ　大人しすぎ！

「ううん　家はちょっと歩くには遠いから・・・　ちょっと待って
る　むかえ呼ぶから」

「・・・うん」

ケータイはどこだっけ？　あっあった。

「もしもし？　セバスチャン？　むかえに来てくれない？

・・・いいの？　ありがと　え〜と場所は〇〇の前の河原にいるか
ら

・・・うん　・・・そう　じゃあね」

「・・・セバスチャン？」

ん？　どうやらミストは誰か気になったみたいだな

「ああ　セバスチャンは俺んちの執事」

「・・・ひつじ？」

「いやいや　し・つ・じ！」

「・・・執事！？　・・・お金持ち？」

「わかんねえけど　みんなそう言っなあ」

・・・金持ちって　どんな基準なのかわかんねえしな
みんなより金を持ってれば金持ち？

リムジンを持ってれば金持ち？

よく　わかんねえよなあ？

おっ？ 来たな セバスチャン

「おっ？ 来たぞ」

「・・・！？」

「おい セバスチャン ここだぞー」

「・・・でかつー！」

・・・ やつと 来たか ようやく家に帰れる

「セバスチャン ありがとな」

「いえ 当たり前のことしただけですから。」

「謙遜すんなって」

「はい。 それより隼様、皆様がお待ちですよ」

「そうか。 じゃあ帰るか そういえば今日はこいつらも家に連れて帰るからな」

「かしこまりました。 彼女ですか？ お子様も！？ 隼様お手がはやいですね」

「違っつて！ 今日初めて会った赤の他人！」

「そうですか・・・」

・・・ セバスチャンは話しやすいから気に入ってるな
俺にも普通に話しかけてくれるし・・・

お父さんみたいだし・・・

うわっ！　ここ日本か！？（後書き）

家に着きませんでしたね

次回は家に着くか、人物紹介のどちらかです

感想よろしくおねがいます

着いたぞぉ〜 どこに？ 家に！（前書き）

今回は隼の家族が出てきます

お気に入り登録が7件に！

うれしいです！

でわ 本文にどうぞ〜

着いたぞぉ〜 どこに？ 家に！

家に着いたぞ〜

言つとくけど俺んちは普通の家だからな
誤解すんなよ？

「着いたぞ ここが俺んちだ」

「!?!?・・・豪邸!?!」

「そうか？ 普通じゃね？」

「・・・絶対普通ではないと思う!」

あれっ？ 似たような話 少し前にも

してたような気が・・・

まっ 気のせいか

「あつ セバスチャン あいつらはどこにいるんだ？」

「はい。 皆様は7階のリビングにいらっしやいます。」

「ありがとう・・・行くぞ ミスト、クロ」

「だあぶ!」

「・・・うん」

エレベーターに乗って行くのかな？

ていうか いつまでくつついてんだろうな・・・クロは
赤ちゃんだから軽いけど、暑いんだよな・・・

おっ エレベーターが来たぞ!

「・・・もうこれくらいじゃ驚かない」

「ん？ どうした？ 乗らないのか？」

「・・・乗る」

まだ、2階か

「……！……何故エレベーターの中にメイドが!？」

「ん？ ああ それか？ それは、階数が多いだろ？」

だから、待つてる間にいろいろ世話をしてもらうんだよ」

「……」

「な？ 留美？」

「はい。そうでございます。 ミスト様、クロ様でよろしかったでしょうが」

「あつてるよ。 さすが留美 情報がはやいな」

「いえ そんなことは」

「お前も謙遜すんなって」

「……はい。」

執事にしてもメイドにしてもかまこまりすぎて

話しくいんだよな

普通に話してもいいのに……

おっ 着いたかな？

「じゃあな 留美」

「はい。」

「行くぞ、ミスト、クロ」

「だっ!」

「……うん ……5分かった」

リビングに行くか

「この奥がリビングだ

一応 覚えとけよ?」

「・・・うん」

じゃあ 入るか

「ただいま」

「「おかえり」」

「おつ 隼兄 だれその人たち」

「こいつらは・・・知り合いだ」

「その間が気になるけど・・・まあいつか」

「そうそう 気にすんな」

「彼女じゃないの？ お兄ちゃん」

「美優か、こいつとは今日会ったばかりだからな」

「「・・・よかった・・・」」

ん？ 何か聞こえたような気が・・・

「ん？ 何か言った？ 美優、龍？」

「「何にも！」」

「名前は？」

「女のほうはミクル・マストだからミスト、赤ちゃんのほうは、ク

ロウ・M・？世だよ」

「へえー 外国人？」

「・・・まあ そんなところかな？」

「どこから来たの？」

「・・・魔界です」

着いたぞぉ〜 どこに? 家に! (後書き)

言っちゃったぁ〜

どうなるのかな?

感想よろしくお願いします

魔界？ いやいやマカオでしょ？（前書き）

お気に入り登録9件！

魔界？ いやいやマカオでしょ？

「・・・魔界です」

「ん？ 魔界？ 聞き間違いだよね・・・
マカオだよね！ うん！」

現実逃避してるな・・・

残念 それ聞き間違いじゃないんだよね
普通信じないと思うけど・・・

「魔界？ どんなところ？」

一人いた！ 信じてる人！

「・・・美優 お前信じたの？」

「えっ？なの？」

「いや 本当だけど・・・ 普通信じたくない？」
「えっ 本当なの！？」

よかった 龍は普通の子で・・・

「ああ クロは魔王の子供で人間界を
滅ぼしに来たんだって・・・」

「滅ぼすの？ どうやって？」

おいおい 美優 なぜ うれしそうなんだ・・・

「・・・分かりますん」

おいおい ミストよ それでいいのか!?

「そーなんだ・・・」

がっかりするなよ 美優 お前も死ぬかもしれないんだぞ?

「・・・はい」

よかったー 滅ぼされるのはまだまだ先になりそうだな

魔界？ いやいやマカオでしょ？（後書き）

短い？と思いますが

今回は人物紹介です？

感想よろしくお願いします

人物紹介！ えっ今頃？（前書き）

人物紹介です

人物紹介！ えっ今頃？

飛翔 隼（ひしょう はやと）

身長 182？

体重 58？

容姿

結構モテルね

上の中ぐらいかな？

ケンカ

静かに素早く倒すね

本気出せば男鹿より強いかな？

備考

高校1年生

面倒見がいい

葵と寧々と千秋と幼馴染

男鹿とは会ったことがある

見た目

黒髪、黒目

片目は前髪で隠れている

クロウ・M・?世

通称 クロ

突然 隼の前に現れた

赤ちゃん

実は魔王の子供

ベル坊とは従兄弟

隼になっっている

癩癩起こすと何かが起きる（ベル坊だと電撃のように・・・）

格好は黒色のシャツに黒色のズボン

さらに黒色のフード付きパーカーを着ている

決して裸ではない

見た目は赤髪、赤眼

ミクル・マスト

通称 ミスト

クロの侍女悪魔

冷静だがよく取り乱す

格好は黒色のロングコートを着ている

見た目は黒髪・碧眼・長髪

年齢は悪魔に年齢なんてあるのかな？

見ただけでは高校生ぐらいに見えるね

飛翔 龍 (ひしょう りゅう)

身長 141?

体重 32?

容姿

男の娘だね

前髪をピンで止めてる

備考

背が低いことを気にしている

シックレットシューズをはいていることもあるくらい

ブラコン おにーちゃん大好き

飛翔 美優 (ひしょう みゆ)

身長 146?

体重 ひ・み・つ

容姿

かわいいが・・・

おにーちゃん一筋だから・・・

ブラコン

キリ

インコで

ペット

放し飼いしていて

隼が笛を吹くと飛んでくる

なついているから逃げはしない

よく言葉を覚えてくる

ほかにもいろいろ飼っている
いつかでてくる・・・

人物紹介！ えっ今頃？（後書き）

大丈夫ですかね？

感想などお願いします！

痼癢ほど怖いものはない！（前書き）

早くも更新！

痼癢ほど怖いものはない！

・・・滅ぼされる・・・怖いね・・・

「そつそれより、ミストとクロはどこで寝るの？」
「どこがいいかなあ」

「普通に考えれば美優の部屋が空いてる部屋だよなあー
女だし・・・」

「私の部屋がいい！ たくさん話したいし」

よかったー この頃龍も美優も俺の部屋に入ってくるからな
ミストと寝るとなると俺の部屋には入ってこない！
つてことになるよな？

「そうか！じゃあミストとクロは美優の部屋で寝るよ？」

「・・・うん・・・言い忘れてたけど

・・・坊ちやまの親になつたら・・・

・・・30m以上離れると何かが起きるから

「は？ 何か？ 何かって何!？」

「・・・さあ？・・・忘れた」

「しらねえのかよ!」

「・・・うん

・・・けどたぶん危ないこと

「こえよ。もっと親になりたくなくなってきたよ!」

「・・・それは困る」

「こつちが困るの!」

「・・・」

こえゝ 30m以上離れたら 何が起きるんだ!?

「・・・あっ・・・思い出した」

何!? はやく言ってよ 気になるじゃん!

「何だ?」

「・・・吹雪が起きて・・・凍るかも?」

「えゝ! 吹雪!? 凍る!?!」

けど、まだましかゝ

暑いよりは寒いほうが好きだからな!

「気を付けてね・・・隼兄」

「見捨てんなよ! 龍!」

「だってどうにもできないし・・・」

「お前も凍るかもよ? 近くにいと・・・」

龍は寒いのが苦手だからなあゝ

「あっそうだった どうしよう」

痼癩ほど怖いものはない！（後書き）

短いかも！？

隼「感想くれよなっ」

ク「だあぶ！」（ほしいな？）

ミ「・・・感想くると・・・うれしい」

ありえねえーだろ！ 普通！（前書き）

「ミ・・・感想くれると嬉しい」
ク「だぶっ」（うんうん。）

それでは、本文へGO！

ありえねえーだろ！ 普通！

・・・どんまい・・・龍

「まあ 俺が親にならなければいいだけなんだけどな」
「ねえ さっきから言ってる親ってどういうこと？」
「ああ 言っただけでなかったな」

～説明中～

「・・・厄介なことに巻き込まれたね 隼兄」

「・・・ああ 分かってくれるか？」

「・・・うん さすがにね」

「・・・ありがとう 俺の味方は龍だけかも・・・」

「・・・俺は龍の頭を撫でた・・・
よかった 分かってくれる人がいて・・・」

「えっ／＼／＼ちよちよっと おにっ！隼兄！？」

あれっ 何で 龍顔赤くなってるんだ？

「／＼／＼いついきなり どうしたの？」

「いやっ 俺のこと分かってくれる

人がいるんだなあっと思って・・・」

.....美優ですら あれだし・・・

「魔界ってどんどころかなあ いったみたいなあ」

.....

「あつ ちょちよつと おにーちゃん！
なっなんで龍兄の頭を撫でてんの！？
龍兄ずるいつ！」

「ノノノずるいつてなんだよ！」

「ずるいもん！ 私だって撫でてほしいもん！」

撫でてもらうってそんなにいいことなのかなあ？

「そうなのか？ 撫でよつか？」

「うん！」

なぜか美優も撫でてほしいって言うてきたから
撫でてあげた

.....なでなで.....

「ふわあノノノ」

何その声！？ こいつもなぜか顔赤くなってるし！？

「？ 美優 どうした？」

「／／／ うっうっうん なっ何でもないよ」

「・・・うっん まあ そういうならいつか？」

ん？ クロはなんで 涙目なんだ？

「・・・坊ちやまも撫でてほしいそうです」

「そうなのか？」

「だっ！」（うん！）

「そっか」

「・・・ナデナデ・・・」

「だぶうっ」

「うれしそうだな クロ」

「ミスト教えてくれてありがとな」

「・・・ナデナデ・・・」

「・・・／／／」

「（また、おにーちゃん 無意識におとしてる！
うっうっ ライバルがどんどん増えていくよ」

「ただでさえ、葵ちゃんや寧々ちゃん、千秋ちゃんも
いるのに」

「おっ？ 何かみんな顔が赤いぞ？ 何でだろう？ まっいつか

ありえねえーだろ！

普通！（後書き）

龍「感想ほしいなあ〜」

美「私もほしい〜」

隼「俺もほしいがあんまり無理言つなよ?」

<http://ncode.syosetu.com/n8467x/>

アンケートをとっているので
よければ協力してください！

今日の晩御飯は？（前書き）

久しぶり？
の投稿です！

今日の晩御飯は？

あゝ 腹減ったなゝ 飯食うか。

今日のメニューは？

やった！ 最高級の肉を使った
ハンバーグステーキだゝ

「龍 今日誰が飯作った？」

「えっ あっああ 今日セバスチャンが作ったよ？」

「そーか うまそうだなあ じゃあみんな座れゝ」

そう俺が叫ぶとどこにいたのか

メイド・執事達がズラツと並んで座った
いつにもまして速いなあ

俺が叫んでから10秒もたたないうちに
みんな座ったよ

すごいな

「すげー そろってるな」

「おい ミスト、クロも座れよ？」

「だぶっ！」

そうそう。 クロは俺の膝の上に・・・
ってなんで！？

ミストの膝の上でもいいじゃん！

「・・・分かった」

ミストは俺の横だな

今の並びは

俺がいて左右にミストと美優

前に龍、龍の左右にセバスチャンと留美

空いてるところにメイド・執事たちだな！

ちなみにメイド50人 執事50人だからな！

俺と同級生のメイドや執事もいるけどな？

「それじゃあ・・・いただきます！」

「・・・いただきます」「」

まずは、ハンバーグステーキから食べよっかな？

「おっうまいな」

「おいしい セバスチャン すごい」

「・・・!?!?」

クロには最高級のミルクだな

「だあぶ！」

「・・・おいしいって言ってる」

「そうか！ よかったな クロ！」

「だぶっ！」

喜んでるみたいでよかったなあ

「あ！ 風呂入るか？」

俺はミストに追いかけまわされたから
汗びっしょりだから

早く風呂入りたいんだけどな

「女風呂・男風呂・混浴があるよ？」

美優がミストたちに教える。

教える意味ねーけどな

だって女風呂しか入らねーだろ

混浴入るやつは俺の親父とおふくろしか
いねーしな

あの年になってもラブラブだからな

・・・俺が引くくらい

今は2人とも旅行行ってるからな

混浴は入る人今はいねーしな！

今日の晩御飯は？（後書き）

次の投稿は遅くなりそうです

続きまだ考えてませので（^| ^ ;）

なるべく早く更新したいと思います！

感想お願いします！

なんとなくの番外編 ㄥ隼の恩返しㄥ (前書き)

なんとなく思いついたまま書きます

おかしいと思います^^

まだ、本編に出てない人も出てくるかも？

なんとなくの番外編 ㄱ 隼の恩返し

ある寒い冬の日に
少年が外に倒れていました
それを見た葵という少女は
少年に近づき……

「ねえ 大丈夫？」

話しかけました。

「んー…… だっ大丈夫ですよ！」

大丈夫らしいですね…… 眠そうですね……

「そう？」

「はっはい！」

その時はそれで帰りました……

次の日

コン コン

「はい？」

「こんにちは」

「こんにちは…… あのあなたは？」

「あつすいません。僕は昨日外で倒れてたところを
あなたに助けられた隼です」

「あゝ昨日の・・・大丈夫だった？」

「はい！ピンピンしてます」

「そうみたいだね 中に入る？狭いけど・・・」

「いいんですか？」

「うん」

恩返しにきたみたいですね

助けられた隼が・・・

「寧々〜 お茶入れて〜 お客さ〜ん」

「分かりました〜」

「千秋〜 座布団しいて〜」

「・・・了解」

葵さんは3人暮らしみたいですね

女の子だけの・・・

「すわつて〜？ 隼君」

「あっはい」

「姐さん 誰ですか？ こいつ」

「昨日助けた子」

「・・・すごい」

「僕は隼といます」

「私は葵で・・・」

「私が寧々」

「・・・千秋」

「葵さんと寧々さんと千秋さんですか・・・」

今更ながら自己紹介・・・

「あの 空いてる部屋ってありますか？」

「あるけど・・・」

「借りていいですか？」

「いいよ？ 何に使うの？」

「内緒です・・・」

「そう？」

「あっ 僕が入ってる間は決まってるぞかないでくださいね」

「うっうん 分かった」

やっぱり、恩返しですかね？

「決まってるぞかないでくださいね」

「姐さん・・・のぞかないでって言われると

逆にのぞきたくなってきませんか？」

「そっそっね」

「・・・(コクコク)」

そっつとのぞいてみると・・・そこには!?!?

ウィーガシャン ウィー

まさかのロボットがいました

「ノゾカナイデッテイッタノ・・・」

「ごっごめんね？」

「バレタカラニハ、ココヲデイクシカアリマセン・・・」

「えっ出てくの？」

「ハイ。シヨウタイガバレタノデデテイクシカナイノデス」
「どうしても？」
「イエス」

アオイタチノメカラハナミダトイワレルモノガ・・・
ケド、ボクハデテイキマス

「サラバデス」

ウィー ガシャン ウィー

「隼」 戻って来て〜」
「お〜いもどつてこい」
「・・・帰ってきて」

カエリニクイデスネ

プス プス

コツコノオトハ！？
シマッタコシヨウカ！？

「・・・戻ってきた」
「は？」
「ホントだ」

「・・・スイマセンガコンセントヲカシテイタダメマスカ？」

「うっうん いいよ」

「・・・アリガトウゴザイマス」

シマラナイハナシダナ

タシ

メデタシメデ

なんとなくの番外編 ㄱ準の恩返しㄱ (後書き)

・・・ダブンデスネㄱ

ワカリマスW

チヨットシタキノマヨイナノデオキニナサラズ・・・

感想や誤字がありましたら

教えてください^^

サラバ

お風呂 お風呂 ……しゃべったー!?(前書き)

タイトルが意味不明ですねw

さて、本編へGO!

お風呂 お風呂 ……しゃべったー!?

さて、ミストは?

「……今日は、女風呂に入る」

えっ!?! 今日はい!? 明日も泊まんの?

しかも今日は、女風呂?

明日は別のところに入るつもりなの!?

「そっそうか……」

「……うん」

まあ いいか ……たぶん 大丈夫だと思うし……

「じゃあ 3人で入ってこい!」

もちろん この3人は美優、ミスト、クロの3人な?
誤解すんなよ?

「うん! おにーちゃんも入らない?」

「入るか!」

「そっか……」

そんな残念そうな顔をすんなよ

俺が女風呂なんか入れるわけねーだろ

「……坊ちやまも?」

「うん？ クロといっしょに入らね〜のか？」

「・・・（ここは隼様といっしょに入れたほうが坊ちやまとの絆が深まる？）・・・」

「・・・隼様が坊ちやまといっしょに入ってください」

なんか 黙ってる時間が長かったような・・・

「？ そうか？ じゃあクロ！ 一緒に入るか！」

「だぶっ！」

おおクロがおどろしてるw

そんなにうれしいのか？

「だ！ ぶ！ ぱあぱ？」

おお パパって言ったぞ！？

俺のことか？ 親ではないけど・・・

「・・・！？ （私の名前よりはやく隼様のことを

パパと言われるとは・・・）」

なんか ミストが 膝について落ち込んでるぞ・・・

「・・・！（けど パパと呼ばれたということは

なつかれたという証拠！？）」

「・・・（がしっ）・・・親になって？」

おおう ミストが明るくなったと思えば

いきなり俺の手をつかんで「親になって？」

と言ってきた・・・

なぜ？ いきなり？

「いきなり！？ 何で？」

「・・・いいから 親になつて？」

「えゝ けど俺より強くて凶悪な人なら

クロはなつくんだよな？」

「・・・うん・・・たぶん」

「よしっ！ 明日は学校だし、俺より強い人を探すか」

「・・・なつかないとだめだね・・・」

「まっまあ大丈夫だろ・・・あつ葵なら強いし
なつきそうだなあ

明日、聞いてみるか！」

お風呂 お風呂 ……しゃべったー!?(後書き)

やっど?

次回、男鹿、葵、寧々、千秋などが出てきます?

感想、誤字等がありましたら教えてください!

・・・お休み・・・おはよう(前書き)

葵が出てきますね

ほんのちよっとエロいかも？

・・・お休み・・・おはよう

・・・

「じゃあ寝るか！」

「うん！」

「だあ〜」

眠そうだなクロは・・・
ミストと美優の部屋に連れてくか！

「お〜い ミスト〜」

「・・・？」

「こいつ連れて行ってくれ」

「・・・隼様の部屋で寝かせて」

「ん〜？ 分かった 今日だけかな？」

「・・・うん（やった！）」

ふわあ〜 眠いなあ〜

「寝るか クロ おやすみ」

「だあ〜・・・ZZZZ」

クロは寝たか。 じゃあ俺もねよっかな？

寝た・・・

翌朝

「ふわあゝ ねみい」

「だゝ・・・」

クロも起きたか

リビングに行くか

リビングに行くとセバスチャンがいた

「セバスチャンおはよゝ」

「おはようございます。隼様、クロ様
だゝ」

起きるのはやいなあゝ セバスチャン
まだ、5時だぜ？

「セバスチャン、俺外走ってくるから
美優達に言つてて？」

「かしこまりました。隼様気を付けて、
いってらっしゃいませ」

「おう 行ってきます」

俺はそういつて外に出た

「ああゝ 気持ちいいなあゝ」

「えっ？ えっ？」

うくん いきなり言われても困るよなあ

「だあぶ」

おお クロが葵に飛びついた！

「あっ！」

「ほらっ、クロも葵になついたようだしな」

「あっ んう」

あれっ？ クロが葵の胸を触ってるぞ？

「おい！ クロ？」

「だあぶう」

「あっ／／／ はあっ はあっ（こんなところを隼に見られた・・・／／／）」

「だっ大丈夫か？ 葵？」

「あっ うっうん だっ大丈夫」

「そうか。ごめんな？ クロ腹減ってたみたいで・・・」

「っ！ そっそう」

「・・・だあぶ」

「それじゃあ 学校でな？」

「うっうん！」

うくん これじゃあ 葵は無理そうだな

次は寧々と千秋に聞いてみるか。

・・・じゃあ家に帰るか

ク口も腹減ってるみたいだからな

・・・お休み・・・おはよう（後書き）

大丈夫かな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5627x/>

べるぜバブ ~もう一人の悪魔~

2011年11月15日22時10分発行